

長大、フィリピン・ミンダナオ島で 30MW 級水力発電所開発 開発費用 100 億円－日本の水車発電機メーカー、金融機関の参画を促進 2014 年運営開始に向けて事業可能性調査実施

経済産業省の「インフラ・システム輸出促進調査等事業」で

株式会社長大(東京都中央区、永治泰司代表取締役社長。以下「当社」)は、フィリピンはミンダナオ島において、30MW 級の水力発電所－ワワ川水力発電事業の開発に向けた事業可能性調査(以下「本調査」)を実施することにいたしました。

本調査は、経済産業省の平成 24 年度「インフラ・システム輸出促進調査等事業(円借款・民活インフラ案件形成等調査)」(以下「本調査事業」)の採択を受けたもので、今年 8 月にも着手し、来年 2 月末までの約半年間にわたって実施される予定です。2014 年度内の発電事業開始を目標にしています。

当社では、今年 4 月 30 日に、ミンダナオ島最大のゼネコンであるエクイパルコ社(本社:同島ブトゥアン市)及びフィリピン企業 2 社との間で基本契約書を締結。ミンダナオ島の北アグサン州・南アグサン州で開発予定の 3 つの水力発電事業(以下「本発電事業」)－「アシガ水力発電事業」(発電容量:約 8MW。事業費:約 24 億円。2014 年初頭に運営開始予定)、「タギボ川水力発電事業」(発電容量:約 5MW。事業費:約 14 億円。2014 年半ばに運営開始予定)、「ワワ川水力発電事業」(発電容量:20～30MW。事業費:約 100 億円。2014 年度内に運営開始予定)－の開発に関して、これら事業運営のために設立する特別目的会社(以下「SPC」といいます。)への出資と取締役 1 名の派遣と合わせて、エンジニアリング・レビュー、施工監理、水車発電機導入、O&M 等に関する 5 つのコンサルティング業務契約を締結することで合意済みです。

このうち先行する「アシガ小水力発電事業」は、既に SPC の設立手続きに入っており、今月中にも SPC 設立を完了し、本格的な事業活動を開始。今秋には、2014 年初頭の発電事業開始に向けて工事に着工する予定です。

当社では、本発電事業において、水力発電で長い歴史と高度な技術力を有する日本メーカーの水車発電機の導入を働きかけているところです。

当社は、本年 6 月 25 日～7 月 5 日まで、財団法人海外産業人材育成協会(英文名:The Overseas Human Resources and Industry Development Association。略称:HIDA(ハイダ))の「平成 23 年度インフラ・システム獲得支援技術協力事業」の採択を受けて、本発電事業に関わりが深く、また事業の運営方針等の決定に強い影響力を有する官民双方のキーパーソン 13 名をフィリピンから招聘しました。

来日中の約 2 週間にわたり、①小水力発電事業についての講義、②水車発電機メーカーの工場

見学及び研修、③黒部川発電所をはじめ水力発電所の視察、の3つで構成される研修を実施(以下「本研修」)。本研修を通して、水力発電についての日本の技術力の高さを認識してもらうと共に、ライフサイクルコストの考え方、ライフサイクルコストの観点を踏まえての価格競争力について理解を深めてもらうことで、当社が関わる3案件において、日本の水車発電機メーカーの参画を促進しています。

フィリピンのミンダナオ島は、海産物資源や稲作を中心とした農作物や森林・鉱物資源が豊富である一方、電力供給力が乏しく安定性に欠けることが、経済発展の足かせとなっている状況です。ミンダナオ島では、電力需要が毎年5%前後増加して電力需給が逼迫していることもあり、安定したエネルギー供給が喫緊の課題となっています。

また、フィリピンでは、政府が「エネルギーの自給自足」(Energy Self-Sufficiency)政策を推進。2008年に再生可能エネルギー法が制定され、固定価格買取制度(Feed-in Tariff)導入により民間の再生可能エネルギー開発を奨励しています。特に本事業で対象とするミンダナオ島北東部は、降雨量状況や地形の勾配から見て、フィリピンの中でも最も水力発電に適した地点にあり、ミンダナオ島における再生可能エネルギーに占める水力発電の比率は約9割を占めている状況です(2010年実績。フィリピン国エネルギー省調べ)。

水力発電は、我が国で100年以上の歴史を有するなど技術的に確立されていることから、日本の高度な技術に対する現地のニーズや信頼は高いものがあります。

本調査事業では、当社が主導する形で、事業可能性調査を実施することになります。高度な技術力をベースにした日本スタンダードの導入を通して、より効率的な発電事業が実現することで現地の経済開発に貢献すると共に、水車発電機メーカーをはじめ日本企業が参画しやすい環境整備に寄与するものになります。

縮小が続く国内の公共事業のマーケットと、アジアを中心とする旺盛なインフラ需要を背景に、「パッケージ型インフラ海外展開」について国を挙げての議論が展開される中で、当社では、本発電事業がこうした政策にも合致し、日本企業にとって新たな収益機会となるモデル案件に位置付けられるものだと考えています。

■ お問い合わせ

本件に関する報道機関からのご照会は、以下へお願い申し上げます。

宗広裕司（むねひろ ゆうじ）
 株式会社長大 事業推進本部 事業企画部長
 電子メール：munehiro-y@chodai.co.jp
 電話：03-3639-3321
 携帯：080-5048-8137

参考資料：

1. ワワ川小水力発電事業の位置図



2. 水力発電事業 3 サイトの概要

	ワワ川水力発電事業	アシガ川水力発電事業	タギボ川水力発電事業
発電容量(予定)	30MW 級	約 8MW	約 5MW
事業費(予定)	約 100 億円	約 24 億円	約 14 億円
事業開始(予定)	2014 年度内	2014 年初頭	2014 年半ば
事業主体(SPC)	設立予定	アシガ・グリーン・エナジー・コーポレーション	タギボ・グリーン・エナジー・コーポレーション
長大の関与	1) SPC への 10%の出資、 2) SPC への取締役 1 名の派遣、 3) SPC への以下 5 種コンサルティングサービスの提供 (ア) エンジニアリング・レビュー (イ) 施工監理に関するコンサルティング (ウ) O&M に関するコンサルティング (エ) 日本メーカーの発電機器調達に関するアドバイス、サポート (オ) 日本の金融機関の情報提供		
パートナー	<ul style="list-style-type: none"> ・ エクイパルコ社 ・ ハイドロリソース社 ・ ツインピーク社 		

3. 現地パートナー企業の概要

社名:	エクイパルコ社 (EQUIPARCO CONSTRUCTION COMPANY)
業務内容:	ゼネコン(ミンダナオ島最大手)
本社:	フィリピン国 ミンダナオ島 北アグサン州 ブトゥアン市
役員:	CEO: ルーベン・A・ジャヴィエール (Ruben A. Javier)、 COO: ロニー・ヴィセンテ・C・ラグナダ (Ronnie Vicente C. Lagnada)

社名:	ハイドロリソース社 (HYDRO RESOURCES MANAGEMENT AND CONSULTANCY, INC.)
業務内容:	小水力発電コンサル企業
本社:	フィリピン国 メトロマニラ・ケソン市

社名:	ツインピーク社 (TWINPEAK HYDRO RESOURCES CORPORATION)
業務内容:	事業企画開発、投資
本社:	フィリピン国 ミンダナオ島 北アグサン州 ブトゥアン市

以上